

第116表 作業別年度別能率指數表

(1人1日の仕上数を大正10年を100として示す)

年 別	軸 工 場 1 人 1 日	金ペン工場 1 人 1 日	取付工場 1 人 1 日	全 工 場 1 人 1 日	記 事
大正7年	?	?	?	?	10年10月 月給制實施
8年	?	?	?	?	
9年	98	96	99	93	
10年	100	100	100	100	
11年	104	111	106	117	
12年	128	136	138	156	
13年	144	118	144	140	
14年	215	129	229	146	
昭和5年	326	196	380	259	
10年	346	203	568	363	
14年	416	207	725	349	

生活の安定感は能率向上の基本条件であるが故に、賞與制による標準文化的生活向上費としての賞與制は、能率の向上、欠勤率の低下、疾病率、災害率の減少は必然的に招來されるものである。

之に加へて文化的生活の向上を目指して進むための向上費としての賃金を能率俸(一〇%)年功加俸、精勤俸を通じて標準最低賃金の二〇%を支給し、更に、事業成績によつて賞與制による年一〇割内外の賞與を支給するならば、總計最高は標準最低賃金の三〇%以内にて充分目的を達する事が出来るものと確信するものである。以上の基準によつて推計を試みたものが第一八表である。即ち能率俸は最高一〇%の計算であるから事實は三%のものもあり、五%のものもあり、七%のものもあるわけである。年功加俸は期別標準により計算したものであり、精勤俸は精勤を貰らぬもの、一期文のもの、二期文のもの、三期文のもの、四期繼續のもの等區々であるわけである。此處では二期分位は平均してとれるものと假定し、計算したものであ

第117表 年次別欠勤率

年 次	欠 勤 率 %
大正 7 年	?
8 年	?
9 年	?
10 年	6.5
11 年	6.1
12 年	4.8
13 年	3.9
14 年	4.7
15 年	3.8
昭和 2 年	7.8
3 年	8.0
4 年	3.3
5 年	3.9
6 年	3.0
7 年	2.2
8 年	2.2
9 年	2.5
10 年	1.8
11 年	0.9
12 年	1.8
13 年	2.0
14 年	3.3
15 年	4.6

る、賞與に於ても甲乙丙とあるが最高である甲の計算例を示したものである。而して何れの年齢に於ても、最高額が標準最低賃金の三〇%を超過する事がない様になつてゐるのであるが、實額に於ても文化生活向上費としても充分と考へられるものである。(第一二圖は標準最低賃金の三〇%以内の文化生活向上賃金を圖表化したものである)

第118表 文化的生活向上賃金表(月收)

年齡	標準最低賃金(A)	能率俸(B)	年功加俸(C)	精勤俸(D)	賞與年10割(E)	A+B合計	A+B+C合計	A+B+C+D合計	總合計(A+B+C+D+E)
20	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
1	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
2	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
3	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
4	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
5	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
6	51.97	5.20	—	0.87	4.33	57.17	57.17	58.04	62.37
7	98.75	9.88	2.96	1.65	8.23	108.63	111.59	113.24	121.47
8	98.75	9.88	2.96	1.65	8.3	108.63	111.82	113.47	121.47
9	114.34	11.43	3.43	1.95	9.53	125.77	129.20	131.15	140.48
30	119.53	11.95	3.59	1.99	9.96	131.48	135.07	137.06	147.02
1	135.13	13.51	4.05	2.25	11.25	148.64	152.69	154.94	166.19
2	140.32	14.03	4.91	2.34	11.69	154.38	159.26	161.60	173.29
3	161.11	16.11	5.64	2.52	13.43	177.22	182.86	185.38	198.81
4	166.31	16.63	5.82	2.77	13.86	182.94	188.76	191.53	205.39
5	171.52	17.15	6.00	2.86	14.29	188.67	194.67	197.53	211.82
6	181.90	18.19	6.37	3.03	15.16	200.09	206.46	209.49	223.65
7	187.10	18.71	7.48	3.14	15.59	205.81	213.29	216.43	232.02
8	197.49	19.75	7.90	3.29	16.46	217.24	225.14	228.43	244.89

9	202.69	20.27	8.11	3.38	19.89	222.96	231.07	234.45	251.34
40	213.00	21.30	8.52	3.55	17.75	234.30	242.82	246.37	264.12
1	218.28	21.83	8.71	3.64	18.19	240.11	248.84	252.48	270.67
2	218.28	21.83	8.82	3.64	18.19	240.11	249.93	253.57	271.76
3	233.87	23.39	10.52	3.90	19.49	257.26	267.78	271.68	291.17
4	233.87	23.39	10.52	3.90	19.49	257.26	267.78	271.68	291.17
5	239.07	23.91	10.76	3.98	19.92	262.94	273.74	277.72	296.64
6	239.07	23.91	10.76	3.98	19.92	262.94	273.74	277.72	296.64
7	249.45	24.95	12.47	4.16	20.79	274.40	286.87	291.03	311.82
8	249.45	24.95	12.47	4.16	20.79	274.40	286.87	291.03	311.82
9	197.49	19.75	9.87	3.29	16.46	217.24	227.11	230.40	246.44
50	197.49	19.75	9.87	3.29	16.46	217.24	227.11	230.40	246.44
1	150.72	15.07	7.54	2.51	12.56	165.79	173.33	175.84	188.40
2	150.72	15.07	7.54	2.51	12.56	165.79	173.33	175.84	188.40
3	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
4	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
5	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
6	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
7	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
8	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
9	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92
60	98.75	9.86	5.43	1.65	8.23	108.61	114.04	115.69	123.92

總括

我國の労働政策の貧困は土臺のない掘立小屋の如く、一時的糊塗策に終仕され、労働政策の根幹をなす標準最低賃金制の確立に努力されなかつた爲めである。能率と賃金をリンクせしめず、國民生活の保證と云ふ見地からの最低賃金の確立なくしては國民生活は安定しない、國民生活の安定なしに國家總力戦は甚しく困難であることは云ふまでもない。

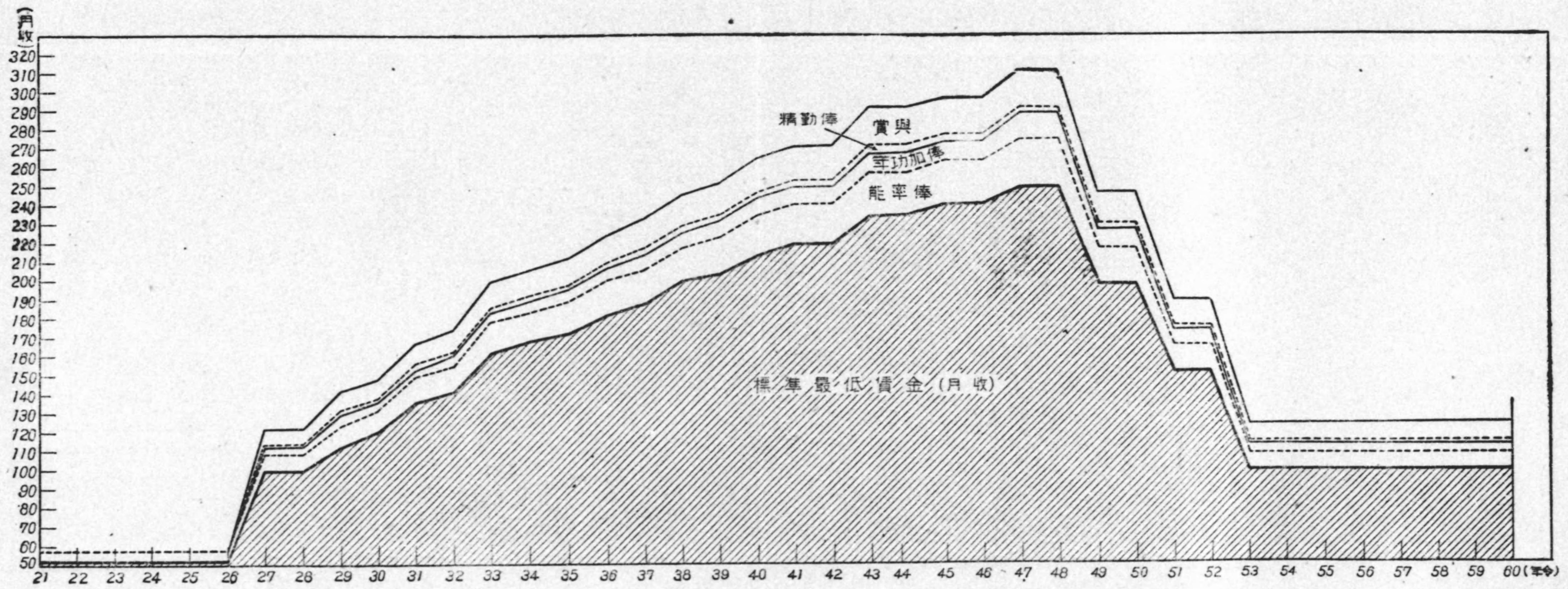
我國の労働階級は一貫してその生活の安定を求め續けて來たのである、而かも決して多くを望んでゐるものではない。只不安なき生活を求めてゐるのみである、國家總力戦への遂行のためにも標準最低賃金制の實施は緊急事である。若し此標準最低賃金制を實施するならば我國の産業能率は五割方増加するであらう。今その主なる利益を挙げれば次の如くである。

- 1、精神的不安の解消によつて、明朗となり作業能率が増大する
- 2、そこには心からの協力と奉仕の精神が生れ眞の産業報國の精神に徹底する
- 3、勤勞即報國の精神は、蔭日向なく全力を傾注する事が出来るばかりでなく、一旦有事の際は應召者同様少しも變らぬ態度で犠牲に甘んじられる
- 4、國民體位が向上する
- 5、疾病率災害率が低下する

等の減少

て不必要な移動が防止される。
 にもまさるものは國民全體が、
 ことが出来ること云ふ喜びである。
 勤勞の生活の天地をのみ望んで
 心して止まぬものである。

第12圖 文化的生活向上賃金圖表



労働政策の根幹をなす標準最低賃
生活の保證と云ふ見地からの最低
甚しく困難であることは云ふまで
して多くを望んでゐるものではな
低賃金制の實施は緊急事である。
。今その主なる利益を擧げれば次
一旦有事の際は應召者同様少しも

6、 缺勤率が減少する

7、 教育程度の向上、 教養及技術的向上による作業能率の大と共に不良品、 仕損品等の減少

8、 賃金の全國的基準が出来、 統一整備されるが故に賃金のむらがなくなり、 従つて不必要な移動が防止される。

以上の如く最低生活費賃金制の實施は、 各種の利益があるのであるが、 以上の利益にもまさるものは國民全體が、
天皇陛下の赤子としての責任を身を以て心から各々の持場に於て協力して果すことが出来ると云ふ喜びである。
我々はみだらな享樂を欲するものではない。 生活の安定を望み、 不安なく、 汗した勤勞の生活の天地をのみ望んで
ゐるのである。 日本人としての誇りを制度の改善によつて一層輝かして貰ひたいと念じて止まぬものである。

附 表 1 内閣家計調査による費途別實支出

給料生活者	生活必要費	飲食被小	大正15年 昭和2年																		
			和 6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12	12-13	平均	世帯人員	平均	世帯人員								
費 計	32.44	16.60	26.34	26.59	26.90	28.41	29.89	30.66	31.96	32.85	14.19	12.69	12.84	12.60	12.43	12.43	12.33	12.66	32.76	4.06	3.77
	4.56	12.21	3.95	4.03	4.33	4.36	4.47	4.41	4.75	4.08	3.26	3.38	3.59	3.67	3.74	3.72	3.72	4.07	4.08	2.04	1.71
費 計	65.81	28.81	57.20	58.04	58.78	60.00	60.50	60.50	62.09	61.45	51.23	51.96	52.28	54.55	55.05	55.89	57.92	62.09	10.63	10.83	83.65
費 計	11.08	11.08	13.17	13.35	14.60	13.89	13.39	13.68	13.13	11.08	9.28	9.10	11.22	10.62	10.34	11.00	10.05	13.13	11.08	11.08	83.65
費 計	2.04	2.04	2.19	2.43	2.43	2.78	2.74	2.61	2.07	2.67	2.23	2.19	2.50	2.47	2.22	2.49	2.15	2.07	2.04	2.04	83.65
費 計	83.65	83.65	82.46	83.02	86.25	86.12	86.89	88.37	89.17	82.95	73.08	74.57	75.05	76.73	76.65	79.17	81.09	89.17	83.65	83.65	83.65
平均	4.06	4.06	3.77	3.85	3.89	3.76	3.83	3.80	3.77	4.11	4.08	4.05	4.09	4.12	4.12	4.14	4.16	3.77	4.06	4.06	4.06

附 表 2 内閣家計調査による實支出費途別割合 (%)

給料生活者	生活必要費	飲食被小	大正15年 昭和2年																		
			和 6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12	12-13	平均	世帯人員	平均	世帯人員								
費 計	32.66	18.87	31.94	32.03	31.19	32.99	34.40	34.67	35.84	32.66	18.87	19.18	18.48	18.01	17.89	17.25	17.12	35.84	12.89	13.13	100.00
	4.55	13.82	4.79	4.85	5.02	5.06	5.14	5.00	5.33	4.55	13.82	4.85	5.02	5.06	5.14	5.00	5.33	11.34	14.28	15.97	100.00
費 計	69.40	32.66	68.82	68.90	67.29	69.25	69.05	68.45	69.63	69.40	68.82	68.90	67.29	69.05	68.45	69.63	69.63	69.63	12.89	13.13	100.00
費 計	12.89	12.89	13.13	12.38	12.96	12.39	12.38	13.11	13.32	12.89	13.13	12.38	12.96	12.39	12.38	13.11	13.32	13.32	14.28	15.97	100.00
費 計	3.43	3.43	2.08	2.64	2.82	3.23	3.15	2.95	2.32	3.43	2.08	2.64	2.82	3.15	2.95	2.32	2.32	2.32	3.43	2.08	100.00
費 計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
費 計	39.76	15.78	35.35	35.58	35.90	38.19	39.53	39.14	40.40	39.76	35.35	35.58	35.90	38.19	39.53	39.14	40.40	40.40	15.78	17.36	100.00
費 計	4.56	4.56	4.60	4.53	4.78	4.78	4.88	4.70	5.02	4.56	4.60	4.53	4.78	4.78	4.88	4.70	5.02	5.02	14.28	15.97	100.00
費 計	73.09	12.99	70.10	69.68	69.65	71.09	71.82	70.59	71.43	73.09	70.10	69.68	69.65	71.09	71.82	70.59	71.43	71.43	12.99	12.79	100.00
費 計	11.32	11.62	12.19	12.20	12.09	11.85	11.79	12.38	12.39	11.32	12.19	12.20	12.09	11.85	11.79	12.38	12.39	12.39	11.32	11.62	100.00
費 計	3.97	3.97	3.05	2.94	3.33	3.22	2.89	3.14	2.65	3.97	3.05	2.94	3.33	3.22	2.89	3.14	2.65	2.65	3.97	3.05	100.00
費 計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

附 表 3 給料生活者實支出 (昭和11年9月—12年8月)
(内閣統計局調査)

職業別	總額	生活必要費					社生活費	文化費	其他
		食物費	住居費	光熱費	被服費	小計			
總額(平均)	88.37	30.66	15.25	4.41	10.18	62.50	11.58	13.68	2.61
總額(平均) 官吏	84.90	30.65	14.24	4.29	9.47	58.65	10.73	13.05	2.46
總額(平均) 社會職員	91.19	31.24	15.83	4.43	10.81	62.31	12.18	13.87	2.83
總額(平均) 社會職員	86.55	28.54	15.65	4.63	9.59	58.42	11.54	14.45	2.14
總額(平均) 社會職員	100.0	34.7	17.3	5.0	11.5	69.5	13.1	15.4	3.0
總額(平均) 社會職員	100.0	36.1	16.8	5.0	11.1	69.0	12.6	15.8	2.9
總額(平均) 社會職員	100.0	34.2	17.4	4.8	11.9	68.3	13.4	15.2	3.1
總額(平均) 社會職員	100.0	33.0	18.1	5.3	11.1	67.5	13.3	16.7	2.5

職業別	總額	生活必要費					社生活費	文化費	其他
		食物費	住居費	光熱費	被服費	小計			
總額(平均) 計者者	79.17	30.99	12.33	3.72	8.85	55.89	9.79	11.02	2.49
總額(平均) 計者者	79.09	31.03	12.19	3.69	8.81	55.75	9.77	10.96	2.61
總額(平均) 計者者	79.57	30.78	13.05	3.89	8.88	56.60	9.98	11.22	1.79
總額(平均) 計者者	100.0	39.2	15.6	4.7	11.1	70.6	12.4	13.9	3.1
總額(平均) 計者者	100.0	39.3	15.4	4.7	11.1	73.5	12.3	13.9	3.3
總額(平均) 計者者	100.0	38.7	16.4	4.9	11.1	71.1	12.5	14.1	2.3

附 表 4 給料生活者收入階級別實支出内譯 (昭和11年9月--12年8月)
(内閣統計局調査)

收入階級別	總額	生活必要費					社生活費	文化費	其他
		食物費	住居費	光熱費	被服費	小計			
60圓未満	57.89	22.80	8.39	2.83	3.43	37.53	4.41	8.68	7.30
70	62.17	25.20	11.96	3.49	5.39	46.06	6.80	8.48	0.83
83	67.38	26.12	11.89	3.85	7.30	49.16	8.21	9.04	0.97
90	77.15	23.52	13.31	4.18	8.90	54.91	9.56	10.98	1.70
100	85.90	30.01	15.11	4.44	9.74	59.30	10.82	13.66	2.12
100圓以上	102.10	33.57	17.36	4.75	12.18	67.86	14.12	16.49	3.63
60圓未満	100.0	39.4	14.5	5.0	5.9	64.8	7.6	15.0	12.6
70	100.0	40.5	19.3	5.6	8.7	74.1	11.1	13.6	1.3
80	100.0	38.8	17.7	5.7	10.8	73.0	12.2	13.4	1.4
90	100.0	37.0	17.3	5.4	11.5	71.2	12.4	14.2	2.2
100	100.0	35.0	17.5	5.2	11.3	69.0	12.6	15.9	2.5
100圓以上	100.0	32.8	17.1	4.7	11.9	66.5	13.8	16.1	3.6

附表 5 労働者の収入階級別支出内訳 (昭和11年9月—12年8月)
(内閣統計局調査)

収入階級別	總 額	生 活 必 要 費						社 生 會 費	文 化 費	其 の 他
		飲食物費	住居費	光熱費	被服費	小計	計			
50圓未満	44.43	24.37	5.89	2.41	4.87	37.54	3.32	2.78	0.79	
60	52.37	24.65	9.19	3.15	4.24	41.23	4.99	4.59	1.26	
70	59.96	27.12	10.12	3.43	5.90	46.57	6.39	6.29	0.71	
80	68.09	28.14	11.13	3.53	6.88	49.68	8.14	8.32	1.95	
90	76.06	30.04	11.79	3.62	8.17	53.62	9.77	10.54	2.13	
100	83.56	32.41	12.97	3.82	9.59	58.79	10.29	11.74	2.77	
100圓以上	95.40	34.59	14.21	4.01	11.62	64.43	12.35	14.94	3.68	
50圓未満	100.0	54.9	13.3	5.4	10.9	84.5	7.5	6.2	1.8	
60	100.0	47.1	17.5	6.0	8.1	78.7	9.6	9.3	2.4	
70	100.0	45.3	16.9	5.7	9.9	77.8	10.6	10.5	1.1	
80	100.0	41.3	16.4	5.2	10.1	73.0	11.9	12.2	2.9	
90	100.0	39.5	15.5	4.8	10.7	70.5	12.8	13.9	2.8	
100	100.0	38.8	15.5	4.6	11.5	70.4	12.3	14.0	3.3	
100圓以上	100.0	36.2	14.9	4.2	12.2	67.5	12.9	15.7	3.9	

附表 6 「東京市及近接町村中等階級生計費調査」による職業別飲食物費 (大正11年)

職 業 別	食 料 費						嗜 好 品 費				合 計	
	米麥及代用食	肉類乳卵	魚介	蔬菜乾物豆腐佃煮	調味料	出前物	計	酒	煙草	菓子果物料飲		計
官吏	13.47	3.54	4.87	6.83	4.03	4.36	37.10	2.16	1.26	4.35	7.77	44.87
公務員	14.11	2.66	4.83	6.22	3.75	3.85	35.40	2.48	1.73	3.39	7.60	43.00
警察官吏	12.02	2.22	3.08	4.97	3.35	2.09	27.73	1.76	1.47	2.71	5.94	33.67
小中学校教員	14.07	4.22	4.54	6.76	4.32	3.87	37.78	1.53	1.01	4.52	7.06	44.84
銀行會社員	14.40	4.14	5.85	7.57	4.24	5.43	41.69	2.69	1.66	5.42	9.77	51.46
電車從業員	14.59	1.93	3.51	5.71	4.21	2.41	32.36	3.23	1.42	2.90	7.55	39.91
電氣從業員	15.55	1.93	4.28	6.43	4.72	2.43	25.34	3.52	1.47	3.17	8.16	43.50
雑	13.70	3.01	3.96	6.25	3.87	3.59	34.39	2.09	1.39	4.55	8.03	42.42
(計)平均	14.00	2.93	4.37	6.35	4.09	3.45	35.19	2.47	1.43	3.84	7.74	42.93

附表 7 「東京市及近接町村中等階級生計費調査」に於ける収入階級別支出割合 (大正11年)

収入階級別	世帯數	%							計
		飲食物費	住居費	被服費	燃料燈火費	其他	計		
80圓以下	231	40.44	19.16	13.02	6.78	20.61	100.00		
100圓	251	39.71	18.04	13.52	6.63	22.10	100.00		
150圓	346	34.83	17.40	15.30	5.60	26.18	100.00		
200圓	127	30.71	17.96	14.25	4.83	32.25	100.00		
200圓以上	72	29.52	17.85	12.72	4.49	35.41	100.00		
(計)平均	1027	35.19	17.94	14.10	5.69	27.08	100.00		

附 表 8 東京市及近接町村勤勞階級收入別生計費割合 (昭和11年7月 533世帯)
(東京市調査)

收入別	實 支 出		百 分 比		其 他
	均	平均	均	平均	
50圓未満	56.99	22.68	9.45	2.04	17.55
75圓	73.00	25.02	13.34	3.12	24.13
100圓	98.41	29.65	17.63	3.85	36.85
125圓	110.21	35.01	18.68	4.31	42.31
150圓	112.57	31.93	19.52	4.31	38.38
200圓	209.53	45.37	41.83	8.37	88.17
平均	90.68	28.54	16.18	3.63	32.79
50圓未満	100.0	39.80	16.58	3.58	30.80
75圓	100.0	34.27	18.27	4.28	33.05
100圓	100.0	30.13	17.88	3.92	37.45
125圓	100.0	31.77	16.95	3.91	38.49
150圓	100.0	28.36	17.34	3.85	34.09
200圓	100.0	21.65	16.97	3.99	42.08
平均	103.0	31.49	17.84	4.00	36.15

統計時報 第82號 23頁

附 表 9 某大工場に於ける生計費 (一ヶ月當り)

支 出 費 目 別	該當人員一人當り			百 分 比(%)		
	職 員	職 工	合 計	職 員	職 工	合 計
食 物 費	41.94	37.50	37.98	22.8	28.7	27.1
住 居 費	20.33	15.07	15.64	11.0	11.5	11.3
光 熱 費	8.62	5.85	6.20	4.67	4.47	4.4
被 服 費	10.66	6.55	7.14	5.79	5.00	5.1
生活必需費計	81.55	64.97	66.96	44.26	49.7	47.9
保健衛生費	9.02	7.87	8.02	4.9	9.02	5.53
育兒教育費	9.66	4.02	4.78	5.24	3.07	3.42
交通通信費	3.39	2.77	2.88	1.84	2.12	2.06
交際費	8.23	4.23	4.63	4.46	3.24	3.35
修養娛樂費	10.15	6.26	6.76	5.51	4.78	4.82
貯金保険料	17.52	8.51	9.38	9.52	6.51	9.71
仕 送 り	18.59	11.64	12.26	10.1	8.9	8.77
其他雜費	18.25	12.36	16.06	9.89	9.48	11.48
文化的生活費計	94.81	57.66	64.82	51.46	44.12	46.2
酒 代	4.50	5.10	4.76	2.44	3.9	3.4
煙 草 代	3.46	2.95	3.00	1.88	2.26	2.14
酒 煙 草 代計	7.96	8.05	7.76	4.32	6.16	5.54
酒 小 總 計	184.32	130.98	139.54	100.00	100.00	100.00

1. 「福利増進に関する調査資料」(昭和11年4月調査)による。
2. 本表は一人當とあるも調査者の一人當りであるから大體一世帯と見做してよい

附 表 10 丁 抹 勞 働 者 の 支 出 別 生 計 割 合 (1931年)
(熟練工8分 不熟練工2分 熟練工は都市に限られてゐる)

支 出 別	世 帯 数	世帯當り 消費單位	飲 食 物	住 居	光 熱	被 服	其 の 他	計
			%	%	%	%	%	%
總 (カラウツ) 數	149	2.97	37.3	19.9	3.7	12.0	27.1	100.0
1000—2000	3	2.97	45.1	24.6	4.5	7.4	18.4	100.0
2000—3000	41	2.56	37.5	21.2	3.8	11.1	26.4	100.0
3000—4000	67	2.83	36.0	19.5	3.7	12.5	28.3	100.0
4000—5000	27	3.75	39.1	19.3	3.7	11.6	26.3	100.0
5000—6000	8	3.81	37.6	19.3	3.0	13.5	26.6	100.0
6000 以上	235	3.12	35.1	18.6	5.5	12.8	28.0	100.0
地 方	8	2.75	44.5	21.9	8.1	9.1	16.4	100.0
都 市	66	2.76	38.5	18.3	6.2	11.5	25.5	100.0
總 數	102	3.08	34.9	18.5	5.4	13.1	28.1	100.0
5000—6000	45	3.34	33.5	18.2	5.4	13.5	29.4	100.0
6000 以上	12	4.35	33.5	19.7	4.6	13.0	32.2	100.0
地 方	3	4.87	34.9	20.1	3.2	14.4	27.4	100.0
總 數	99	3.16	38.8	17.6	6.3	12.4	24.9	100.0
1000—2000	23	2.59	41.8	17.1	7.2	11.7	22.2	100.0
2000—3000	42	3.32	41.5	16.4	6.4	11.9	23.8	100.0
3000—4000	33	3.39	35.5	18.7	5.8	13.1	26.9	100.0
4000—5000	—	2.50	33.7	21.0	8.9	12.5	23.9	100.0

地方は 5000 クラウン以上はなし 統計時報 第85號 13頁

附 表 11 ボ ン ベ ー の 家 計 支 出 割 合 (1932—1933年)

收 入 別	世 帯 数	飲 食 物 費	住 居 費	光 熱 費	被 服 費	其 他	合 計
總 世 帯	1469	46.6	12.9	7.1	7.8	25.6	100.0
30ルビ-以下	180	45.6	16.7	8.3	8.7	20.7	100.0
30—40	297	46.1	15.4	7.5	8.2	22.8	100.0
40—50	385	46.7	13.3	7.2	7.8	25.0	100.0
50—60	239	47.5	12.5	7.1*	7.8	25.1	100.0
60—70	147	47.5	11.9	7.0	7.7	25.9	100.0
70—80	77	47.3	11.2	6.7	7.5	27.3	100.0
80—90	92	46.6	10.9	6.5	7.8	28.2	100.0
90 以上	84	45.0	10.5	6.2	6.6	31.7	100.0

統計時報 第82號 10頁

附 表 12 ア マ ー ザ バ ッ ド (印 度) 勞 働 者 階 級 の 收 入 別 生 計 支 出 割 合 (1933年10月—1935年1月)

收 入 別	世 帯 数	世帯當り 平均人員	食 料 費	住 居 費	光 熱 費	被 服 費	雜 費	計
20ルビ-以下	40	3.09	49.2	14.2	8.4	10.3	17.9	100.0
20—30	208	3.37	48.0	14.5	7.7	10.1	19.7	100.0
30—40	309	3.59	48.6	13.8	7.1	9.1	21.4	100.0
40—50	302	3.87	49.3	12.0	6.7	8.9	23.1	100.0
50—60	176	4.38	50.7	9.8	6.4	9.3	23.8	100.0
60—70	86	4.86	51.4	6.2	6.6	9.2	23.1	100.0
70—80	71	5.34	49.7	10.1	6.2	8.7	25.3	100.0
80—90	49	5.37	48.4	7.7	6.0	8.9	29.0	100.0
90 以上	52	5.79	48.4	8.3	5.4	8.7	29.2	100.0
總 數	1,293	4.05	49.3	11.3	6.7	9.1	23.6	100.0

附表 13 イランに於ける収入階級別生計支出割合 (1934年頃)
(617世帯 平均1.7人)

収入別	世帯数	飲食物 %	住居 %	光熱 %	被服 %	其他 %	計 %
總計	617	56.27	9.93	9.50	19.14	5.06	100.0
200リアル未満	185	61.91	7.98	9.57	15.92	4.62	100.0
200 — 300	154	56.33	11.00	8.96	18.66	5.05	100.0
300 — 400	239	59.13	9.02	8.43	17.65	5.76	100.0
400 以上	39	53.18	10.89	8.43	21.02	6.48	100.0

(註) 附表 12 は統計時報 第84號 P. 13
第83號 P. 71

附表 14 南阿聯邦家計費割合 (1936年) (1618世帯 8676人 平均世帯人員5.36)

収入別	食料	住居	被服	光熱	被服	其他	總數
總計	30.8	22.2	12.1	4.1	30.8	100.0	
125 磅以下	41.5	25.3	12.3	6.8	14.1	100.0	
125 — 150	40.8	25.5	12.3	6.6	14.8	100.0	
150 — 175	40.1	27.0	13.7	5.8	13.4	100.0	
175 — 200	39.0	23.7	15.2	5.6	16.5	100.0	
200 — 225	37.4	24.7	12.6	5.0	20.3	100.0	
225 — 250	34.6	23.3	12.5	5.3	24.3	100.0	
250 — 275	31.4	24.4	11.8	4.7	27.7	100.0	
275 — 300	33.0	22.6	13.0	4.6	26.8	100.0	
300 — 325	32.0	22.9	12.9	4.3	27.9	100.0	
325 — 350	31.3	21.9	12.6	4.3	29.9	100.0	
350 — 375	31.5	22.0	11.9	4.0	30.6	100.0	
375 — 400	29.2	22.8	11.8	4.0	32.2	100.0	
400 — 425	30.0	22.6	11.8	3.9	31.7	100.0	
425 — 450	29.8	21.7	11.6	4.0	33.0	100.0	
450 — 475	28.9	21.8	11.7	3.7	33.9	100.0	
475 — 500	29.4	21.2	12.4	3.6	33.4	100.0	
500 — 525	28.4	21.1	11.5	3.8	25.2	100.0	
525 — 550	29.1	20.4	12.0	3.5	35.0	100.0	
550 — 575	28.5	21.3	11.7	3.5	35.0	100.0	
575 — 600	29.0	20.4	12.6	3.4	34.6	100.0	

著者略歴

明治三十五年十二月神奈川縣秦野に生る。大正九年上京、大正十五年日本大學政治科卒業まで六年間純粹の苦學生活を續け、卒業後直ちに東京市社會局に入り、細民調査を擔當、以來生計費問題、異常兒、精神病、アルコール、性病、結核等の社會疾患の研究に、爾來今日まで十數年間全力を傾注して來た。そして其結晶として「日本道德統計要覽」「災害の統計的研究」「我國の結核現狀と對策」「我國の性病現狀と對策」を公刊、更に今回「最低賃金の基礎的研究」を公刊するを得たものである。

現在は日本能率聯合會主事の地位にある。

昭和十六年一月五日印刷
昭和十六年一月十日發行
昭和十六年二月廿日四版發行

定價 五圓八十錢



著者 安藤政吉

發行人 石山皆男

印刷人 神尾福太郎

印刷所 東京市麹町區靈ヶ關三ノ三
ダイヤモンド社印刷所

東京市麹町區靈ヶ關三ノ三

ダイヤモンド社

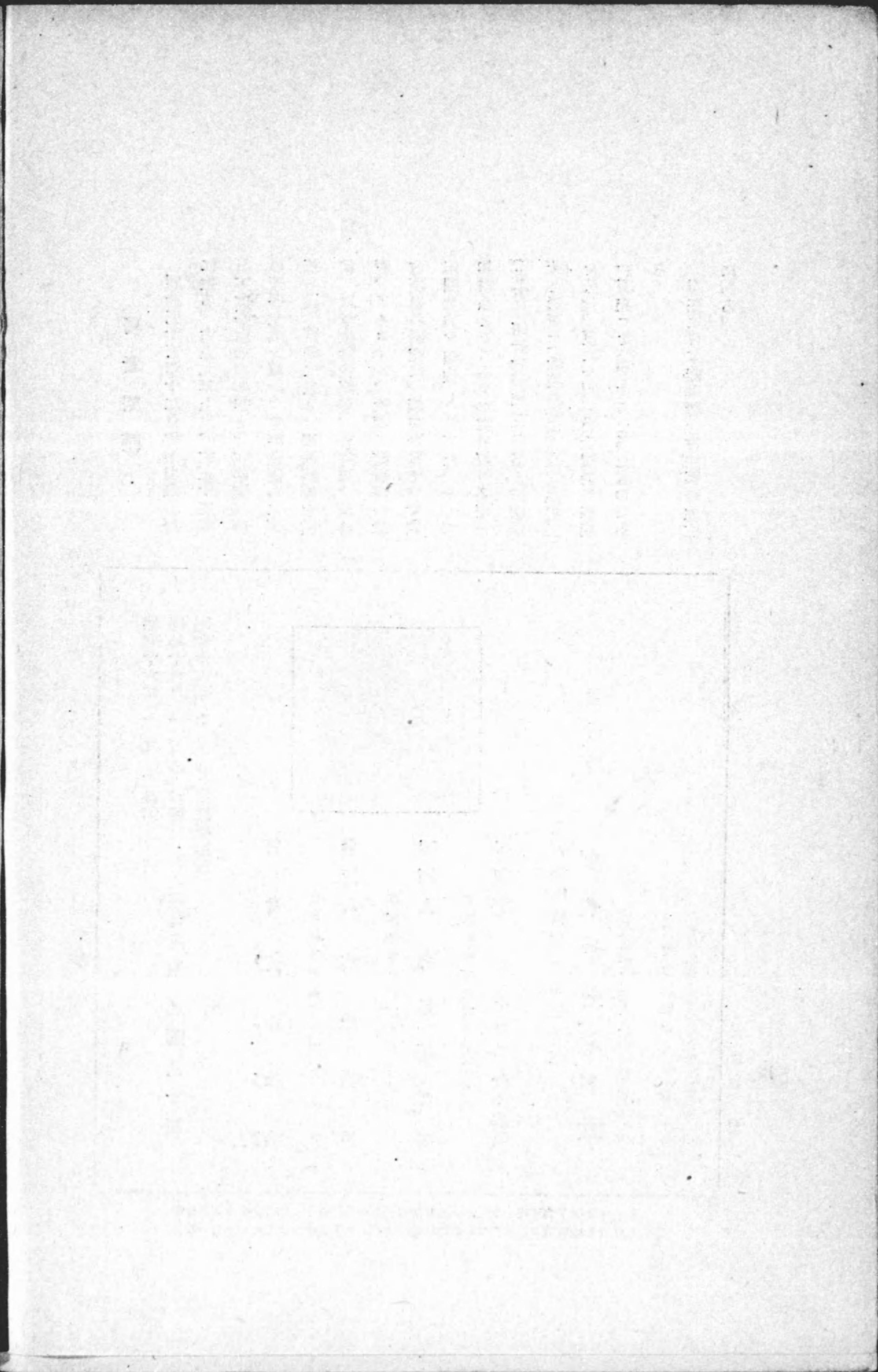
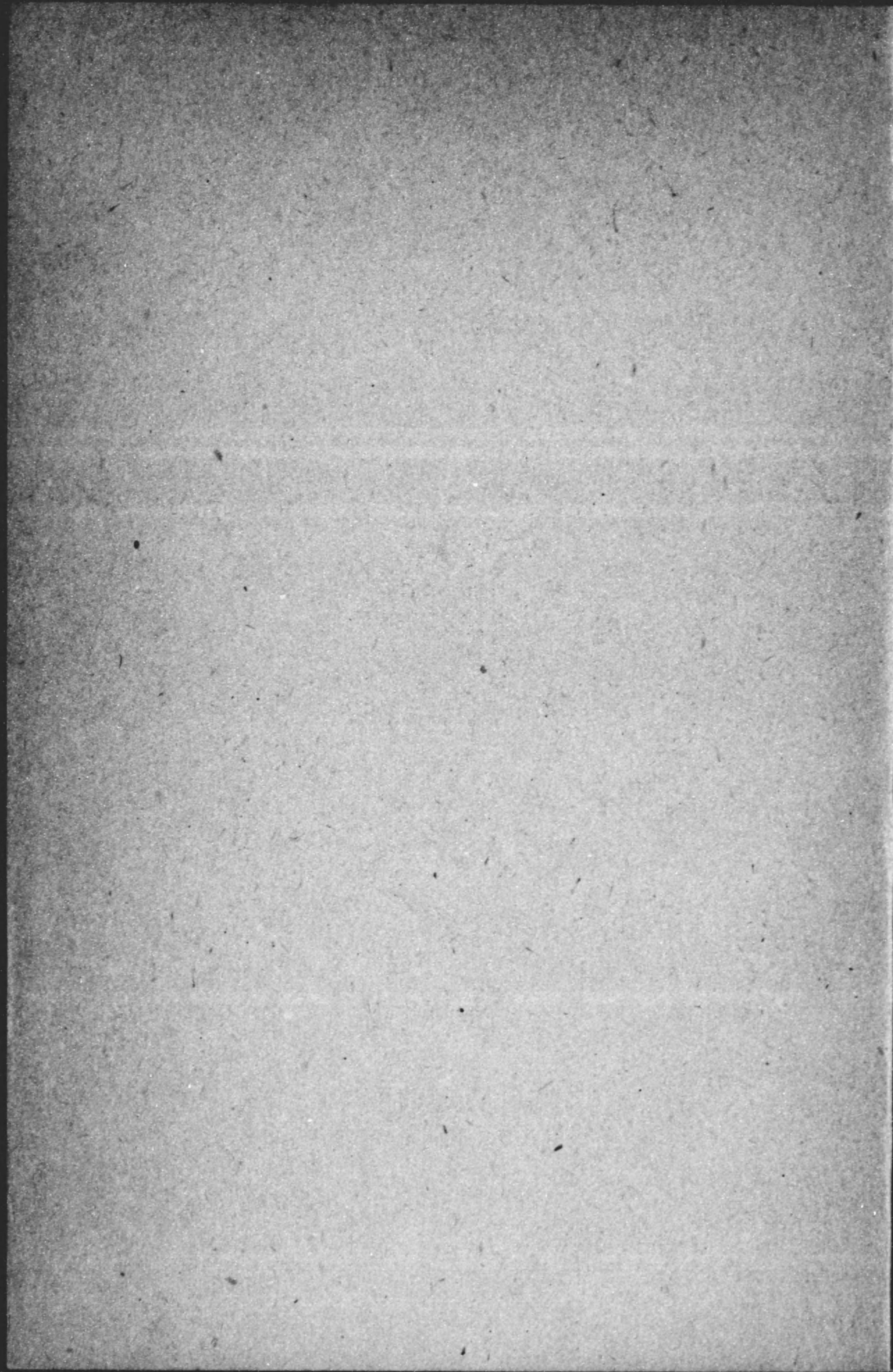
電話銀座四一五五・振替東京二五九七六

大阪支局

大阪市北區中之島(朝日ビル)
電話北濱五七八八・振替大阪五九八〇

(大島製 納)

全完不の等丁重丁落一萬がすまり居てし致を意注分十はて就に物版出社弊
すまし致替取おにち直てに控員料送方當。いさ下出申おは他のび上買お等品



31.10.23

